

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570502799		
法人名	社会福祉法人 中央会		
事業所名	安心サポート本荘		
所在地	秋田県由利本荘市水林281-4		
自己評価作成日	平成27年10月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1
訪問調査日	平成27年10月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

日々の生活の中で孤立感を味わうことなく過ごしてもらえるよう、寄り添ったケアに努めている。
 食事に関しては、施設長よりお手製の無農薬野菜や季節毎の山菜の差し入れがあったり、畑で育てた野菜を収穫し食材として取り入れている。新鮮かつ旬の食材を取り入れることができるため、とても喜ばれている。
 併設施設と合同の行事や法人の保育園の園児との交流もあり、特に園児との触れ合いは入居者の方々も心待ちにされ、楽しまれている。身体機能低下予防のため、毎日体操の時間を設け体を動かす機会を作っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

利用者9人全員が女性、更に施設長はじめ管理者・現場職員全員が女性の事業所です。
 職員は毎日、利用者一人ひとり全員に必ず話しかけて寄り添った支援が実践されています。
 利用者の重度化に伴い食事時間を多くとったり、福祉用具の使用など安全に過ごすための取り組みが行なわれています。
 運営推進会議での資料を出席された委員が持ち帰り、地域住民の集まりの場で使用されることもあり、事業所が地域の一員となっていると感じられました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
60	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「心を大切に」「すべてを受容し」「求めに応える」の理念を共有し、一人ひとりその方らしい生活を送ってもらえるよう心がけ実践している。	事業所の理念を基に年度のスローガンを掲げ、新年や年度初めに確認し、日常的にも職員同士で意識しあいながら実践されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣町内のお祭りや納涼祭、運動会を通して地域の方々や園児との交流をはかっている。	運営推進会議の情報(介護方法など)可能な限り地域に発信したりして交流を深めています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議などで地域の方々へ提供できることや役立つことはないか話し合い、必要に応じて取り組めるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に開催し、ホームの現状や取り組みを報告し、委員の方々より出た意見をサービスの向上に活かせるよう努めている。	重度化に伴う取り組みなどを報告し、具体的な改善課題についても話し合われています。議事録はノートなどで全職員が共有されています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にも参加していただき、情報提供や情報交換を行っている。	利用者の暮らしぶりやニーズを伝えたり、地域のグループホーム連絡協議会を通して連携を深められています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については全職員が正しく理解し、見守りを徹底している。やむを得ない時以外は身体拘束(施錠なども)を行わないよう努めている。	法人の研修や家族の協力も得て利用者本位のケアに取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルを作成し、いつでも確認できるようにしている。研修を通して虐待があつてはならないものと、全職員が理解している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在制度を利用している方はいないものの、必要に応じて研修へ参加し、制度について学ぶ機会を設けていけるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い、不安や疑問に思うことはないか尋ね、理解された上で同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の会話の中やご家族の面会時(電話)などに、ホームに対しての意見や要望、不安に感じていることはないかを聞けるよう、会話する機会を設け、職員間でも話し合い反映させている。	家族・職員は信頼関係を築かれており、要望や意見も面会時や電話などで気軽に話し合われています。内容は申し送りノートや職員会議で共有しサービスの向上に繋がっています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議や普段の業務の中でも話し合いの機会を設け、運営に反映させている。	管理者は日常的に現場職員からの意見や情報を取り入れ話し合われています。ハード面に於いても改善された事例もあります。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の会議にてホームの状況や実績について報告している。具体的な実績(手当てなど)について処遇へ反映されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人研修や希望に応じた各種研修、地域のGH連絡協議会で行われている研修へ参加する機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内のGHとの情報交換や、地域のGH連絡協議会で開催されている研修や交流会へ参加し、ネットワーク作りやサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ホームでの生活について、どのように過ごしたいか、困っていることや不安に感じていることはないか聞かせてもらい、安心して生活してもらえるよう、情報を共有し対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在の状況から不安に感じていることなどを聞かせていただくと同時に、GHの説明も十分に行い理解を得ながら、ご家族の不安を少しでも軽減できるよう努め、また気軽に連絡や相談をして欲しいことも説明している。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	色々な場面で一緒に行えることは共に取り組み、昔からの生活の知恵を教わりながら生活している。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	近況報告のおたよりを発送する際、写真を同封しGHでの状況をお伝えしたり、面会時にもこまめに現状報告を行い、情報を共有できるよう努めている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話で連絡を取り合ったり、面会に来られた際は、その場限りにならないよう、次へ繋がられるような働きかけを心がけている。	入居時に本人・家族より以前の社会関係や人間関係、習慣やこだわりなどを伺い、継続できるように取り組まれています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で入居者同士がお互い声をかけ合いながら過ごされている。また職員が間に入り会話することで孤立せずに過ごしてもらえるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院などによりサービスの利用が終了する場合は、今後も安心して生活できるように相談や支援に応じるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話の中で一人ひとりの希望や意向を把握し、安心した楽しい生活ができるよう、その情報を共有しながら対応に努めている。	把握困難な方からは、夜勤時や入浴時に話してくれることもあり、些細なことでも会議やミーティングなどで共有しながらサービスの向上に繋げています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族やご本人から得た情報や日々の会話の中から知り得たことを、生活の中に取り入れている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方を把握し、その方の得意とすることや好きなことを無理なく続けてもらえるよう努め、その情報は共有するようにしている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を立てる際は職員間でも意見を出し合い、ご本人やご家族の意見や要望を取り入れながら、一人ひとりが安心して生活できるような計画の作成をしている。	担当職員が月間評価を実施し、家族・本人の意見も取り入れ、カンファレンスで検討された介護計画が作成されています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	一人ひとりのその日の行動や状況、気付きなどを個別に記録し、情報を共有しながら介護計画に活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じて各種機関との連携をはかっている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者一人ひとりの以前からのかかりつけの医療機関や、ご家族が希望する医療機関を受診している。	家族も部分的には協力ありますが、殆ど職員が受診介助しています。情報はケースファイルで共有されています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の特養の看護師や入居者一人ひとりのかかりつけ病院の主治医や看護師に相談するなどしている。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはホームでの生活状況を詳しく病院側へ申し送るようにしている。また、入院中の状態も把握できるように連携を密にしている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人やご家族の意向を聞いたうえで、主治医に相談している。その上でホームで対応できるかどうかを見極め、ご本人らしく過ごしてもらえよう、今後の方針を決定している。	家族には主治医のアドバイス受けながら、事業所の方針を説明しています。職員も統一した考えで取り組まれています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が救急救命の講習を定期的に受講しており、緊急時のマニュアルを作成し、施設内研修を行っている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間想定訓練を行っており、一度は消防署立会いのもと訓練を行っている。運営推進会議などの際に、地域の方の協力を得られるようお願いしている。	避難訓練終了時には消防署員からの好評、管理者からの気づきを伝えるなどしながら災害時の対策に取り組まれています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないような言葉がけや、ご本人らしく過ごしてもらえるような対応に努めている。また、個人情報取り扱いについても十分に配慮している。	排泄誘導時の声かけには特に注意して、本人の気持ちを大切に丁寧なケアを心がけています。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の要望に沿った対応を心がけている。本人ができることに関しては時間がかかっても、一人ひとりのペースに合わせて行ってもらえるよう支援している。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理強いせず、一人ひとりのペースに合わせた対応を心がけている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者一人ひとりの希望や好みを尊重している。希望があれば併設施設に来苑する理容師を利用するなどしている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	旬の食材を取り入れ、季節に合わせた献立を組んだり、誕生日には希望を取り、好みに合わせた食事を提供できるようにしている。	敷地内の畑での野菜づくりを楽しみながらおやつをつくったり、パン・麺類など変化に富んだ食事を楽しんでいます。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事制限のある方に関しては、退院時に病院の管理栄養士に栄養指導を受けたり、併設特養の管理栄養士に相談したり、カロリー計算を行ってもらい、栄養バランスが取れた献立になるよう配慮している。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後や就寝前のうがい、歯磨き、入れ歯の洗浄など援助しながら行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、定期的にトイレへの誘導や声かけを行っている。	一人ひとりの排泄が困難な要因を全職員でチェックしながら、習慣やパターンに応じた支援が行われています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を献立に取り入れたり、腹部マッサージや散歩、体操を行っている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望の時間帯を考慮しながら、その日の体調に合わせて対応している。	入浴を拒否される方には時間を変えたりして、週2～3回入浴され、檜の香りを感じながら楽しく入浴されています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転の生活にならないよう、日中の活動を促している。眠れない入居者に対しては寄り添うなどし対応している。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬が処方された時点で職員間で内容を確認し合っている。誤薬や飲み忘れがないよう、日付を記入し、毎食ごと一人ひとりに手渡したり、介助にて服薬確認を行っている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの得意、不得意とすることを把握し、できることを無理のないように日常生活の中に取り入れ、行ってもらっている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	通院時や天候に合わせてドライブや近隣スーパーへの買い物、外での食事会やお茶会を行い、戸外に出る機会を設けている。	家族の協力で毎週外出される方もおります。利用者の希望時には出来るだけ添うよう努力しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族と相談の上、管理のできる方には金額を決め管理していただいている。買い物の際には手助けが必要であれば手伝いながらも、できる限り自分で支払いできるように支援している。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	届いた手紙には職員が手助けしながら返事を書いたり、電話で会話できるよう支援している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭と変らない調度品を置いている。自然光を取り入れながら明るさに配慮すると共に、日差しの強い夏場はすだれを用意している。季節感を感じてもらえるよう、季節毎の植物や壁画を飾り、居心地よく過ごしてもらえよう工夫している。	廊下やホールには年代を感じられらような調度品があり、落ち着いた雰囲気は漂っています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースの居間や玄関にはソファを置き、自由にくつろげるよう配慮している。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具やこだわりのある物があれば入居時に持って来ていただいている。家具の配置や飾りなども相談しながら行っている。	利用者の状態を考慮した床に改善したり、ペットの位置を工夫したりして一人ひとりに適した生活スペースとなつています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室やトイレなどは迷わず分かるような工夫をし、廊下やトイレ、風呂場には手すりを取り付け、一人ひとりが安全に暮らせるよう配慮している。		